

2014年7月6日 主日礼拝説教（要約）

聖書 ルカによる福音書5章17～26節

聖書 「罪を赦す権威」

日本キリスト教会鶴見教会牧師 高松牧人

主イエスのなさったいやしの業の中でも、一度聞いたら忘れられない印象的な場面があります。中風で寝たきりであった人を連れてきた仲間たちは、人波をかき分けて担ぎ込めないと知ると、脇の階段から屋根に上り、主イエスのおられるあたりに見当をつけ、屋根をはいで、そこから病人を床ごとつり降ろしたというのです。おそらく家の中は異常な音と土埃にまみれ、集まっていた人々は腰を抜かすほどに驚いたことでしょう。

中風の人はこのようにして主イエスの前に行くことができましたが、「イエスはその人たちの信仰を見て、『人よ、あなたの罪は赦された』と言われた」（20節）と書かれている。主イエスは信仰をご覧になったというのですが、彼の信仰ではなく、その人たちの信仰とある。この中風の人がどんな信仰をもっていたか、また彼が友人たちに頼んだのかどうかは分かりません。ただ、中風の人と一つ思いになって、何とか主イエスのところに行き、主イエスの恵みにあずかろうとした人々の信仰が、主イエスに認められているのです。彼らのとりなしの信仰が評価されています。主イエスは個々バラバラの信仰ではなく、一人の病む人を取り囲む人々の信仰を見ておられます。一人の病む人の重荷を一緒に担おうとする彼らの信仰が、主イエスの恵みを引き出したのでした。

私たちが招かれている教会というところは、本来こうした出来事が起こされる交わりではないでしょうか。一人一人が自分の信仰を大事に抱え、それを自分一人で磨き上げたり、比べて見たりというのではなく、共に神を讃美し、御言葉に聴き、聖餐の食卓にあずかっている者たちの共に生きる交わりです。未だ信仰を持たない人、病んでいる人、若い人、あるいは教会に来ようと思っても来ることができない人々も包み込みながら、一緒に主の前に出て行き、主の恵みと力をいただこうとするところである。それは、一人ひとりが信仰の告白をしなくてもよいとか、信仰を他人任せにしてよいというわけではありません。しかし、主の憐みと多くの人々の祈りによって、今の恵みへと導き入れていただいた私たちは、また小さなとりなしの業に生きるのです。主の祝福がこの人にもあの人にも届くようにと願い、祈り、仕えるのです。

さて、中風の人に主イエスがまず言われたことは、「人よ、あなたの罪は赦された」ということでした。それは何もその病の原因が彼の罪深い行いにあると判断されたわけではありません。主イエスは、私たちの経験する病気や障害や苦難を、その因果関係を探ったり、特定の罪と結びつけて説明したりということはなさいません。そうではなく、彼が癒されて立ち上がるために、主イエスはこれからの歩みに一番大切ななくてはならないものを授けられたのです。それが罪の赦しの宣言です。肉体が癒されるだけでなく、心と魂も含めてその人全体が神の前に新しくされなければならないことを主イエスはご存じであり、主はそれを約束されたのです。

ところが、律法学者やファリサイ派の人々は、主イエスのなされたこの宣言に我慢ならないものを感じました。なぜ、この男が罪の赦しを宣言できるのか、なぜ神殿でも、聖所でもないところで、罪の赦しをなされるのか、罪の赦しは神だけができること、イエスは神を冒瀆している、と彼らはつぶやき始めたのです。そんな彼らの心の中をただちに見抜かれた主イエスは、彼らに挑戦するように問いかけて言われる、『『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか』（23節）。

この問いをどう理解し、どう答えたらいいのでしょうか。言葉だけならどちらも易しいし、それが実現するかどうかとなるとどちらも難しいのです。律法学者たちやファリサイ派の人々は、理屈や批判はいろいろできても、人の病を癒すことも罪の赦しを告げることもできなかったのです。おそらく、主イエスはその事実を彼らに突き付けながら、神だけができる罪の赦しの権威を、ご自身が持っている、今ここに来ているのだということ宣言しておられるのでしょうか。けれども、そのために主イエスは神の御心に従い、十字架への道を歩みぬかれたのです。十字架の死に至るまでご自身のいのちを注ぎ出し、神に逆らい、罪深い私たちが、罪赦されて生きることができるようになってくださったのです。

主イエスの命令の言葉に、立ち上がり、神を讃美して家に帰っていった人を見て、人々は恐れに打たれ、「今日、驚くべきことを見た」と言っています。「驚くべきこと」とはパラドクスという言葉です。それはパラドックス（逆説、矛盾）という言葉の元になったギリシア語です。元々定まった考え方をひっくり返すという意味の言葉です。神は、この世に遣わされた御子イエス・キリストによって、私たち罪人の赦しと神との和解という驚くべきことを成し遂げてくださいました。

そのパラドックスは、主イエスが地上におられたときだけに起こったというわけではありません。今日、主イエスが集めてくださった教会において起こっているのです。復活の主が恐れの中に閉じこもっていた弟子たちに姿を現してくださり、「聖霊を受けなさい。誰の罪でも、あなたがた赦せば、その罪は赦される」（ヨハネ 20：22～23）と約束されたように、天に挙げられた主は、地上にお集めになった教会に罪の赦しの権能をお授けになりました。人間が語る説教が、主イエス・キリストによる罪の赦しを告げ、一人の仲間を担いで主イエスのもとに連れて行こうとする交わりを、主イエスは信仰とみなしてくださいませ。そのような交わりの中で主イエスは救いの御業を進めてくださいませ。教会は、主イエスから、驚くべきことを受け取り、驚くべきことを讃美し、証して、共に生きる信仰の共同体なのです。